

平成27年度 子ども未来応援会議 議事録 【要約】

日時：平成27年8月27日（木）10時～12時

場所：藤枝市役所3階会議室

主催：藤枝市教育委員会教育推進室

子ども未来応援会議は、「教育日本一のまち藤枝」を目指し、次代を担う子どもたちを健やかに育成するための教育環境の充実を総合的に推進するために組織され、学識経験者や教員、保護者、関係団体など14名の委員で構成されています。

今年度は、教育振興行動計画に基づき各課において各事業が実施されている状況を確認のうえで、教育振興基本計画に掲げる「学びの環境づくり」に必要な“市民意識の醸成”“子どもの創造力・問題解決力を育成する事業の展開”の進捗や、“教育の情報化”“小中一貫教育”等の新たな動きへの対応について、多面的・包括的に意見・助言をいただきました。

議題	評価、提言等
市民意識の醸成	<p>市をあげて意識を高めようという気持ちは学校も感じている。地域の方が、学校に寄せる思いや、いろんな面で応援するよと言ってくれる。地域のあいさつ運動に合わせて教員も活動したり、事あるごとに対話の機会を作ることで、“一緒に”“みんな”互いに互いを支えようとする気持ちが高まっている。あいさつや家庭学習は、学校だけでやることに限界を感じていたが、学校だけでなく地域からも「あいさつしよう」「家でも勉強するのが大事」と話が出てくるようになってきた。少しずつでも、学校から発信して地域から返していただければ、相乗的にいい環境ができていくのではないかと。【教員】</p>
	<p>家庭の中でしっかりあいさつするには、親がしっかりあいさつして子どもに親の姿を見せる。そのためには、親が積極的に地域と関わり、いろんな人に出会うことで、関わりが広がって、いろんなことを勉強することが大切。【保護者】</p>
	<p>「スマイルキッズタウン」事業では、青年会議所メンバーを中心にNPO法人を立ち上げ、擬似職業体験のイベントで、本物の投票箱を借りて市長選をした。小中学生だけでなく、高校生・大学生がボランティアスタッフとして参加した。数年先にはここから巣立った子どもが本物のまちづくりに携わってくれればと思う。また、これを3日間のイベントで完結せず、例えば飲食店にチャレンジする子どもが実際の飲食店を見に行くなど市民にも関わっていただければと思う。【関係団体】</p>
	<p>自治会では『あいさつの笑顔飛び交う藤枝市』をキャッチフレーズに「あいさつ交わし隊」を実施、浸透してきている。大人が子どもに声をかけるのも、うまくなるまで時間がかかる。まず我々があいさつがなぜ大事かを理解して練習する。葉梨自治会では、教員OBに『教育アドバイザー』として保護者の相談等に対応してもら</p>

う。去年はあいさつと読書を中心に活動したが、『4つのしつけで年収が100万違う』『本を読むと金持ちになる』という“つかみ”で話をして、地区の子どもに、推薦図書の一覧表とノーメディアデーをデザインした下敷きを配布した。【市民】

市が子どもの手本となる大人でありたいということを進め、関わろうとする人も、関心のない人もいる。最近、学級懇談会で他人の子どもの頑張りを心から喜ぶ温かいメールをいただいた。自分の子ども以外の子供達にも温かい目を向けることができる大人がいるということが、この事業の成果ではないか。どうしたら、みんなで藤枝市の子どもを育てていこう、自分以外の子供にも目を向けていこうとする空気が高まるかは分からないが、心ある方たちのたくさんの取組み、心に訴えてくるような話題、子どもが愛しくなるような話題をいっぱい発信したり、あるいは学級懇談会等でそういう空気を醸成していく。発信に工夫の余地があるかなと思う。【有識者】

各自治会の取組みには差がある気がする。昔は近所にいろんなおじさんお婆さんがいたが、今はみんなサラリーマンになって、地域に大人がいない。が、元気なお年寄りたくさんいる。お年寄りの活用、お年寄りとの連携が、地域によっては必要ではないか。団塊の世代で定年退職を迎えて地元に戻ってきた人もかなりいると思う。いろんな分野で活躍してきた人達に、土曜授業とか土曜学習で、もう一度活躍する場を与えたらどうか。【関係団体】

私の地域でも、お年寄りが道であいさつ運動と見守りをしてくれており、地域にも教育に関する意識が少しずつ浸透していると思う。ある小学校では、保護者から「食育と体づくりのことが知りたい」という意見が出て、保護者が主導で母と子の講演会を保護者会の中で企画したと聞いた。家庭と学校との連携も少しずつ出てきているのではないかと。とにかく情報を発信していくしかない。【保護者】

藤枝の子をみんなで育てようという心理は「他者に関心を持つ心」が無い限り醸成できない。その取組みは多様であっていいわけで、一つはスマイルキッズタウンや山田辰巳先生の事業のように、学校では出来ないような経験をする。また、そういう大きな取組みでなくても、保育所が地域で散歩に行くと近所の方が園児が通る時間に合わせて道におもちゃを出してくれたり地域のお祭りに呼んでくれたりして、子どもだけでなく親も参加して、地域とつながっていく。子どもを中心に「他者に関心を持つ」ことでとても大きなつながりが出てくる。ある一人の町内会長さんとか、スマイルキッズをやっている一部の人とかということではなくて、形は違ってもこういうつながりがいろんなところにある。それを行政が拾い上げ、みんなにつなげることが大事。幼稚園の近くの川で捕まえた亀を飼育していた子ども達が、同じ川で亀の家族を探したけれど捕まえられず、町内会長に『川に亀がいたら連絡してほしい』と手紙を書いて、老人会との交流になった。しかし、川はコンクリートで埋められてしまった。市のどの施策の中にも子どもを育てる視点があれば、子どもを起点にして他者に関心を持つ土壌ができる。教育委員会だけがやるだけではだめ。また、こういうのは質的評価で、数値を出して成果目標を出してということではないことを行政にも分かってほしい。評価の仕方を変えていかない限り、人の心を育てるとするのは難しい。【有識者】

	<p>子どもの教育の施策を推進する時には、子どもの問題ではなく、大人の藤枝市民をどう教育するかということを考えていかないとだめなんじゃないか。子どもに直させるのではなく大人に直させる。あいさつでも、大人が町であいさつすれば、子どももあいさつするようになるのでは。大人同士のあいさつ、知らない人同士のあいさつは、あまり見ることがない。大人の社会が子どもに反映している。子どもは大人の背を見て育つと言うので、子どもの目線に入る大人をどう変えていくかが大きなテーマ。【有識者】</p>
<p>子どもの創造性や問題解決力の育成</p>	<p>全国学力テストでは、新聞・本を読む子どもは正答率が高いという話があるが、読む子がいる家庭は減っている。そこで、新聞業界では子どもに新聞を読む体験をしてもらっている（NIE）。創造力・問題解決力の育成には、新聞を読む方法がよいのではないか。自分でいろんな記事を探して読むと、何かしら興味がわく。【有識者】</p>
	<p>教育も長期的な視点で将来を見据える経営戦略が大切。授業を受けて知ることと、体験して直接学ぶというのがある。いろんな事業がある中で、参加した子が楽しかったよ、で良しとするのではなく、子ども達の将来、先へつなげていくにはどうしたらいいか。藤枝のいろんな資源、産業の現場の声をもっと子ども達が聞く場が必要。現場の声を通して、何が問題なのか、自分の問題として子どもが考え、疑似体験する。それをコーディネートするような仕組み、戦略が必要。【有識者】</p>
	<p>例えば銀行員をやりたいなら、実際の銀行員に会いに行けば、学校でこのくらい算数を勉強してこういう資格を取らないと勤まらないという話を聞くことができる。単純になりたいもの、職業を紹介するだけでは、なりたい職業へのプロセスを言われないから、夢だけ見てればなれるように子どもは思ってしまう。現状と将来をつなげていく働き掛けを大人がすることが子どもを勇気づける。【有識者】</p>
	<p>自治会主催で子どもの芸術鑑賞を行う際、警察ラップ隊には「警察官になるにはこういうことを頑張っておかないとだめだよ。」ということも話してもらっている。【市民】</p>
	<p>2、3歳で「何で？ どうして？」と言う時期に保護者がいろいろやってあげれば好奇心の輪は広がるが、やらないと好奇心の芽を伸ばせないと思う。【市民】</p>
	<p>ロボットアカデミーは、いいな、藤枝もこういうのやるんだな、と思った。また、私の子どもも今年はスマイルキッズタウンに参加した。家でも接客やものづくりの練習をしたり、当日にもお客さんが来ないけどどうしたらいいんだろう、と悩んだり、いろいろな体験をしてくれた。【保護者】</p>
	<p>創造性や問題解決力はある形の中で成果が出るものではなく、子どもが興味関心を持って感動できるかどうか。2歳で散歩道でウンチをいはずらしていた子は、幼児期で犬やウサギのウンチを見たら体調が分かるようになる位、興味関心を広げていき、結果として獣医になった。遊びがどういう風に展開するかが問われている。今のプレイパークはイベント。【有識者】</p>
<p>教育のICT化</p>	<p>スマホ（携帯）が1日の行動様式を大きく変えた中で、教育にはどういう風に影響をしたか。市として、携帯等が市民（子ども）に与えた影響をどのように考えていくか。【有識者】</p>

	<p>パソコンの授業については、一人一人にパソコンは大変だと思うので、みんなで1つの画面が見られればいいかなと思う。【保護者】</p> <p>必要な知識を視覚だけで吸収するのではなく思考することに時間をかける方が、子どもの脳の発達、深い学び力につながる。新聞とパソコンは思考能力に違いがある。新聞は考えないと読み取れない。絵本を読んであげるのとビデオを見るのでも、やはり思考する力が全然違う。そういう意味で、パソコンから知識をとというのはリスクがあるように思う。授業で集中して考えられる子は、生まれてから親に話を聞いてもらう経験と、絵本を読み聞かせしてもらう経験を積み重ねて、人の話を聞く力を育ててきている。【有識者】</p> <p>子どもに宿題をやらせるのは、知識を定着させるだけでなく、耐性をつける、我慢強い子にするということもあると聞いた。パソコンで簡単に知識を手に入れるのはまずいのでは。辛い作業を頑張ることで我慢強い子になると思う。【市民】</p>
小中一貫教育	<p>小学校と中学校がつながりを持つようとしているのは感じる。例えばノーメディアデー、私の中学校区では、中学から始まって小学校に広がって、幼稚園にまで広がってきた。私の中学校区は、1つの小学校しかなくみんなが同じ中学校に行く小さい地区なのでやり易いと思うが、青中校区のような大きなところでは、人数も多いし学区が広範囲で、中学校と小学校がつながりを持つのは難しいと思う。ただ、小学校と中学校がつながっていると、小学校でやったことを中学校でも継続できたりして、同じことを実行できるというのはいいと思う。【保護者】</p> <p>小中一貫についての子どもの視点でのアンケート等、もう少し情報がないと善し悪しの判断ができない。小学校でいじめられた子が、中学で心機一転やり直そうとしたのに、2年になったら小学校にいた子が同じ中学に入学してきて、結局自殺してしまったということがあった。子どもの視点で考えることが大事だ。【有識者】</p>
その他 各事業への提案 等	<p>あいさつでも何でも、しつけとして小さい頃から理屈を教え、実行と結び付けることが大事だと思う。ある程度大きい子どもには、理論をきっちり話して理解させることが必要。【市民】</p> <p>藤枝市だけの問題とは思えないが肝心の先生が多忙だそうだ。特に中学校では、部活に先生が顧問として関わって、一方で文科省の調査書類を整えたりして、子ども達と向き合う時間が少ないと聞いた。市が先進的な教育をするには、多忙化する教師をどうやってバックアップしていくかだ。【有識者】</p> <p>先生の過重労働の問題は、家庭でやるべきことや社会でやるべきことを全部学校にお願いしているからではないか。教育現場では、教員がいろんな事を引き受けて、やりすぎている部分もあるのでは。部活も教育の重要な一環だが、地域でクラブをやったりして、学校の先生に関係なくできるのではないかな？ 学校が何をすべきか、どこまでが学校の守備範囲か、教員には教員免許を持っていないとできないことだけをやって貰う方がいいのではないかな。【有識者】</p> <p>学校も病院のように、校務をもっと整理して、いろんな職種がそれぞれに役割を分担して、より効果をあげる組織になればいいと思う。市独自で教育の専門職を、ボランティアなりの形でも、学校においてもらう等できないのか。【有識者】</p> <p>教育振興基本計画は複数課が携わって内容も多岐に渡っている。どういう形でコン</p>

<p>トロールしているのか。年度ごとに、重点目標、重点施策があればいい。【市民】</p>
<p>保護者に対しても、子どもから情報を入れていく方法がいい。先生方が子どもにマナーブックを渡せば、子どもが親に言って、保護者に情報は届きやすい。小学生版マナーブックを配布した際、もっと保護者への説明があればよいのと思った。保護者会に出られる保護者ばかりではないし、説明の通知やDVDを作ったらどうか。【保護者】</p>
<p>プレイパークは、私には情報が入ってきてなかったが、毎月やっていたんだな、と思った。【保護者】</p>
<p>湯川秀樹さんがノーベル賞を取った時に、中学の時に短歌か俳句かをやって発想力が育ったと言っていたように思う。ロボット事業では、理系の子を集めて逆に文系の部分で攻めるといいのかもしれない。【市民】</p>
<p>いろんなところで藤枝の教育の良さについて話を聞く。学生ボランティア等による授業のサポート等（大学連携授業支援事業）もやっているとのことで、藤枝市は非常に先進的な教育をしている姿が伝わってくる。【有識者】</p>
<p>小中学生の体験学習では、以前は私のところでも子どもが来てくれて、現場の話ができたが、近年、体験学習は減っていると聞く。私も現場の声をもっと子ども達に聞かせる機会があればいいと思うので、数多くそういう企画（地域探訪・職場体験学習等）があればいいと思う。【保護者（農業従事者）】</p>
<p>ふじえだマナーの推進にあたり学校の授業でお願いしたいのは、子どもに、藤枝で育った誇りと自信を持たせるようにしていただきたい。地域をよく知ることで、よいマナーが生まれてくると思う。【関係団体】</p>
<p>土曜日の放課後子ども教室等、公民館もいろいろ活動しているので新しい事業をやるのも難しいだろうな、よくやっていただいていると感じる。【保護者】</p>
<p>「生きる力」活用力を学校教育で育むことができるか疑問。社会教育、学校外の関わりがすごく大事だ。サポーターズクラブでの学習支援や行事の支援や放課後子どもプラン等で、創造力や問題解決力を育成していく場をもっと設定していくべき。市民と「創造力の育成」を絡める事業や施策の設定を考えるといい。【有識者】</p>
<p>放課後子ども教室やプレイパーク等で核となる人材やコーディネーターは、ボランティアに役割を持たせるのがそもそも難しいのではないかと。やはり市が役割を直接担うか、専門職を雇うとかしなければ育たないと思う。専門職として給料を貰える仕組みを作ったり市職員として専門職を雇ったりして欲しい。【有識者】</p>
<p>直接教育とは違うが、子どもの貧困化やひとり親家庭の増加等による、問題のある家庭の子ども達への支援は、地域でやろうとしても難しい領域。そういったところへの支援はやはり行政だと思うし、一歩進んで先進的な支援体制を作って、貧困化する子どもや自殺する子への対策を国より先に進めてほしい。【有識者】</p>
<p>ムーブメント教育は特殊なもので、市としてムーブメント教育というある1つの教育方法を押し進めていくのはどうなのか、再考をお願いしたい。【有識者】</p>
<p>前回の会議でも情報発信について意見したが、ママフレの中でマナーブックを検索してみてもなかなか到達できない。やっぱり、市のホームページに小学生版・中学生版のページを作ってもらい、それを子どもが見て情報を発信していく。例えば公</p>

	民館の事業は、地域の小中学生を対象に情報発信しているので、他地区の人はあまり知らないが、そういうのも市内全域の小学生版、中学生版のホームページに掲載してもらえば、違う地区の子どもも行きやすい。【保護者】
--	---